

要約

報告書「In the Red」は、環境 NGO の連合体である Environmental Paper Network (EPN) による報告書である(2017年8月発行)。紙パルプ産業は重大な環境的・社会的影響をもたらしていることから、彼らへの資金提供を通じて特に多大な影響を与えている銀行を世界で42行選定し(日本のメガバンクは3行とも含まれている)、その紙パルプ分野の方針を評価した。結果として言えることは、銀行部門には、紙パルプのプロジェクトや企業への無責任な投資を回避するという目的に合致した方針を持たないということであり、日本の3行も例外ではない。EPNは、銀行部門が紙パルプ業界を持続可能な未来に向けて動かすための協力を願い、適切な方針の策定、関係者とのコミュニケーションの継続などの提言を挙げている。

1. 紙パルプ部門の問題と、本評価の意味

森林は地球上の生命を維持するために重要な役割を果たしている。生物多様性の高い陸上生態系であり、炭素吸収源としても機能している。社会的な役割を大きく、世界の何十億人もの人々が森林に住み、生計や文化の面でこれに依存している。それにもかかわらず、世界中の森林は多くの要因から大きな脅威にさらされている。世界の紙消費量は絶えず増加しており、毎日世界中で100万トン以上の紙が使用され、特に、ラテンアメリカ、ロシア、東南アジアで大規模なパルプ工場の拡大が進んでおり、これらのプロジェクトは持続可能な方法で管理されていない。

パルプ工場の拡大は集中的に管理された植林の拡大の主要要因の1つであり、森林伐採、土地紛争、温室効果ガスの放出、生物多様性の喪失、深刻な土壌侵食などの社会的・環境的危機を引き起こす多くの植林地が、持続不可能な形で確立されている。パルプ工場自体も、しばしば周辺地域の大气汚染や水質汚染の原因となり、また膨大なエネルギー(それに伴い温室効果ガスを排出)と膨大な量の水を要している。

これらの業務への資金調達を防止するために、金融機関は紙パルプ部門への資金提供に関して適切な方針を講ずるべきであり、そのためにまず銀行の現行の方針を評価することが必要であると我々は考えた。それは、金融業界が、紙パルプ業界との資金的関与における環境的・社会的リスクの管理にどの程度備えているかを評価するものであり、2016年から2017年にかけて我々は42の民間銀行における紙パルプ分野の方針の評価を実施した。本報告書はその結果を示したものである。

2. 最低要件を示した評価基準「グリーン・ペーパー、レッド・ライنز」

投資機関は、紙パルプ業界のリスク軽減する上で重要な役割を果たすと期待される。その第一歩は投資機関が強力な方針を策定し適切に実施することである。彼らに正しい方向を示すために、NGOは2016年6月「[グリーン・ペーパー、レッド・ライنز](#)」という評価基準を作成した。

¹ 報告書のこのタイトルは、レッド・ライン(譲れない一線)において、ほとんどの銀行が「レッド」側にあるという意味。また銀行が不適切な投資をして資金を失い「赤字」になるという意味も込めている。

これは、環境的・社会的被害を回避するための紙パルププロジェクトの最低要件（レッド・ライン）を記載した文書である。

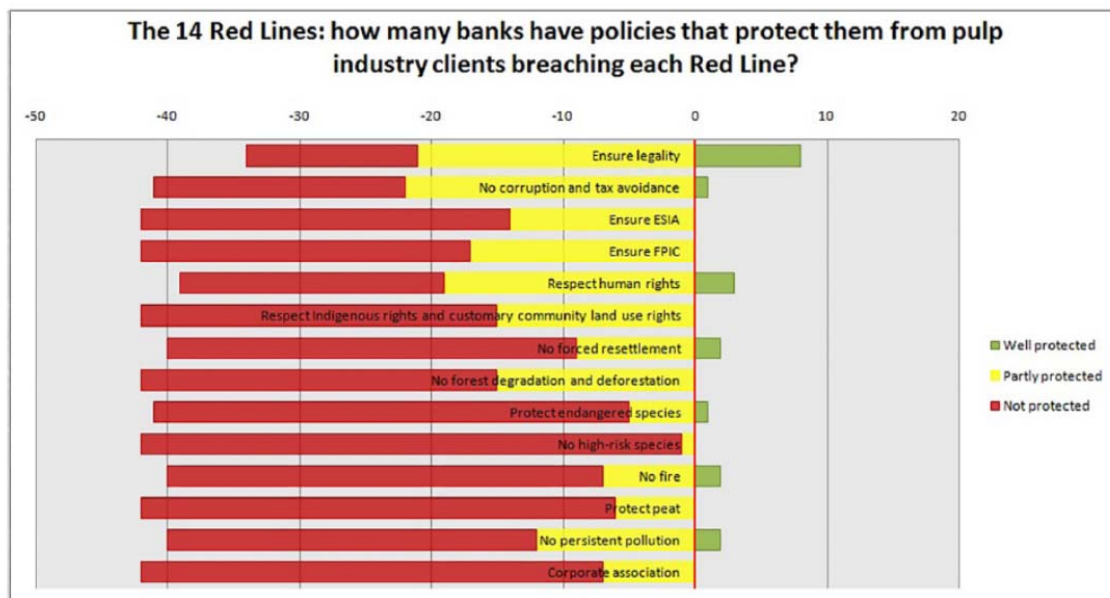
3. 評価の方法

我々は、各銀行が公開している方針を、上述の「グリーン・ペーパー、レッド・ラインズ」の14項目に照らして評価した。自主的な取り組み等も評価に加えた。評価の対象とした銀行は、紙パルプ部門への融資額が上位15位以内の金融機関であるか、または「危険な取引(Dodgy Deals)」すなわち、有害な環境社会的影響を及ぼしているために我々のメンバー団体のキャンペーンの対象となっているパルプ工場のプロジェクトや企業に関与しているか、またはその両方に該当する銀行である。選定されたのは世界の42行であり、国別には中国、ブラジル、アメリカ、台湾など多岐にわたっている。

4. 評価の結果

以下の図において、各水平のバーは1つのレッド・ラインを示し、色ごとにそれに違反する顧客との関与を表している。

- ・バーの緑色の部分：関与しないように十分に防護する方針を持つ銀行の数
- ・バーの黄色の部分：関与から部分的に防護する方針を持つ銀行の数
- ・バーの赤色の部分：防護する方針を全く持たない銀行の数



この調査の意図は、銀行のランク付けではなく、各銀行の方針の欠落部を指摘して銀行をより悪影響の少ない正しい方向に向けるようにすることであった。方針の実施状況の監視も目的ではない。

我々の評価の結果は、銀行の方針が非常に残念であることを示している。ほとんどのレッド・ラインにおいて、多くの銀行が部分的にしか防護されていない。そして評価対象の銀行のどれもが、レッド・ラインに違反する顧客企業から徹底的に防護することはできない。我々は、銀行部

門には、紙パルプのプロジェクトや企業への無責任な投資を回避するという目的に合致した方針がないと結論づけることしかできない。

5. 提言

これらの結果から、我々は銀行に方針の枠組みの改善を促したいと考え、各銀行に次のことを提言したい。

- ・紙パルプ部門の資金提供の方針枠組みの作成・公表が未実施であれば、これを実施する。
- ・我々の方針評価を検討し、必要に応じて改善し、レッド・ラインに違反する企業やプロジェクトに財政的に関与しないようにする。
- ・方針立案の過程で関係グループとの協議を行う。
- ・市民団体やコミュニティグループとのオープンなコミュニケーションを維持する。

「グリーン・ペーパー、レッド・ライズ」は世界中の 140 を超える市民団体が強く支持している文書である。我々は、銀行部門が紙パルプ業界を持続可能な未来に向けて動かすために協力してくれることを願っている。

参考：邦銀の評価（In the Red の内容を基に RAN Japan 作成）

評価対象となった 42 行のうち邦銀は以下の 3 行である（括弧内は評価対象としての選定根拠）。

- ・三菱東京 UFJ 銀行（上位 15 位以内、かつ危険な取引：チリの Arauco に関与）
- ・みずほ銀行（上位 15 位以内）
- ・三井住友銀行（上位 15 位以内、かつ危険な取引：チリの Arauco に関与）

これら 3 行の評価結果は以下のようにまとめられる。

評価項目（レッド・ライズ）	三菱東京 UFJ 銀行【報告書 p49】	みずほ銀行【報告書 p104】	三井住友銀行【報告書 p124】
A. 規制に関する要件			
1) 合法性を確保する。	N	N	N
2) 汚職や脱税がない。	P	P	N
3) 工場および農園の環境・社会影響評価を確実にを行う。	N	N	N
B. 社会的な要件			
4) 自由意志による事前の十分な情報の基づく同意（FPIC）を行う。	N	N	N
5) 人権を尊重する。	N	N	N
6) 先住民族の権利とコミュニティの慣習的土地利用権を尊重する。	N	N	N
7) 強制移住がない。	N	N	N
C. 環境的な要件			
8) 森林の劣化・減少がない。	N	N	N
9) 危機に瀕する生物種を保護する。	N	N	N

10) 高リスク生物種がない。	N	N	N
11) 火を利用しない。	N	N	N
12) 泥炭地を守る。	N	N	N
13) 持続する汚染がない。	N	N	N
企業内の連携			
14) 方針の及ぶ範囲が適切である。	N	N	N

凡例：P: 関与から部分的に保護する方針を持つ

N: 保護する方針を全く持たない

注1：評価項目は、「グリーン・ペーパー、レッド・ラインズ」の14項目に基づく。

注2：報告書では赤道原則との比較を用いた評価もされているが、ここでは省略した。

以上